

■ 平成30年8月6日 産業基盤強化推進特別委員会県内調査

1 奈良先端科学技術大学院大学（生駒市）

【調査目的】産官学の連携の取組について

【調査概要】

<説明の概要>

●目的

- ・学部を置かない国立の大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づき高度な研究により人材を養成し、もって科学技術の進歩と社会の発展に寄与すること。

●理念

- ・先端科学技術分野に関わる高度な研究の推進
- ・国際社会で指導的な役割を果たす研究者の養成
- ・社会・経済を支える高度な専門性を持った人材の養成
- ・社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進

●組織

- ・平成30年4月に、これまでの情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の3研究科を統合して、先端科学技術研究科を設置。
- ・これに伴い、時代のニーズがある融合領域を含む教育プログラムを始めるなど、最先端の革新的な研究を育む体制づくりを進行させている。

●国際交流

- ・学生の4分の1近くが留学生。アジア地域のうち、中国からの留学生が半数を占める大学も多い中、奈良先端大では4分の1程度であり、マレーシア・インドネシアなど、アジア地域の中でも幅広い国から受入を行っている。最近ではヨーロッパからの留学生も増えている。

●奈良県等との連携の取組

[知的財産に関する事例]

- ・産業振興総合センターとの共同研究で、既存の清酒酵母から、清酒中にオルニチンを高生産する酵母を分離することに成功。
- ・この酵母を用いたオルニチンを多く含む清酒は商品化され、平成29年10月から販売を開始している。
- ・平成30年1月には、「オルニチン高蓄積酵母及びその取得方法並びに当該酵母を用いた酒類その他の食品の製造方法」として、特許を取得。

[新産業創出支援事業]

- ・奈良先端大の優れた研究開発成果や技術シーズを活用した新産業の創出を支援することで、地元産業界の発展に寄与することを目的として、奈良県、大阪府、京都府及び関西エリア内に研究所や事業所がある企業や法人と、共同研究を行っている。
- ・実施主体：奈良先端科学技術大学院大学支援財団

[就職支援について]

- ・奈良しごとiセンターからキャリア相談員の派遣を受け、県内での就職を希望する学生を支援できるよう取り組んでいる。
- ・また、奈良しごとiセンターの協力を得て、学生の企業理解・業界研究をサポートすることを目的に、キャリアフォーラムを開催。県内に事業所がある企業だけでなく、奈良県の研究部門として、産業振興総合センター、農業研究開発センター、森林技術センターの参加を得た。
- ・その結果、県内企業への就職者数が徐々に増加してきている。

【質疑応答】

Q：3研究科を1つに統合したのは、学生からの要望を受けてということか。

A：学生の要望というよりは、もっと広がりのある分野を学生に学ばせようという時流を捉えてである。キーとなる3つの分野を融合させることで、相乗効果で色々な分野に広がっていき、研究科の統合はメリットが大きいと考えている。

Q：県内企業への就職者数が増えていると聞いたが、要因は何と考えられるか。

A：奈良しごとiセンターからキャリア相談員の派遣を受けていることや、県内企業のキャリアフォーラムを開催するようになり、企業から色々な話を聞けるようになったのが大きいと考えている。



2 株式会社フルックス（大和郡山市）

【調査目的】 企業立地の事例について

【調査概要】

<説明の概要>

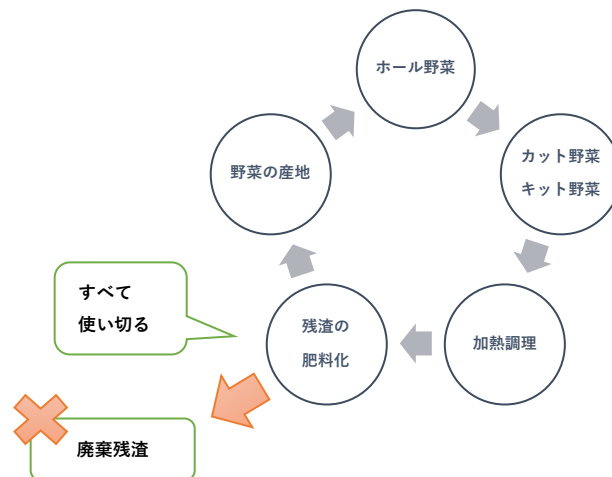
●フルックスグループ会社概要

[社名]

- ・フルックスとは、ラテン語で「大地の恵み」を意味し、英語の「FRUIT」の語源となったもの。

[ミッション]

- ・「余すところなく使い切る、売り切る」
…青果仲卸事業、直販事業、カット野菜事業、ミールキット事業、夕食宅配事業、おせち事業などを通じ、廃棄残渣ゼロに挑戦している。



[組織]

- ・フルックスグループは、事業を分散することで、常に変化対応し、価値創造の挑戦を続けている。
- ・フルックスグループは以下の4会社から成る。
株式会社奈良三晃・株式会社三晃・株式会社味の和路・株式会社フルックス

●株式会社奈良三晃について

- ・青果仲卸事業…食品スーパーに出荷
- ・青果直販事業…テナントという形で出店

●株式会社三晃について

- ・フードサービスグループ（外食向け）
…外食レストラン、大手給食会社、デパ地下総菜専門店、機内食会社などに青果物を小分け納品
- ・デリカグループ（中食向け） ※中食…買って家に持ち帰って食べる
…カット野菜、キット野菜、天ぷら材料など、総菜向けの野菜パーツを、食品スーパー、外食産業に納品

●株式会社味の和路について

- ・レディミール事業、給食事業
…真空調理品、レトルト品、おせち、ミールキットのたれ、夕食宅配弁当の製造

●株式会社フルックスについて

- ・グループマネジメント事業

●ソリューション機能を持つ2つの工場

2つの機能をうまく組み合わせて事業を展開している。

- ・池沢工場…調理品の製造（商品のロングライフ化）
- ・馬司工場…生鮮品の製造（鮮度の追求）

●事業年史

- ・1964年 果実仲卸業開始（大阪市中央卸売東部市場）
- ・1979年 青果加工場を新設（大和郡山市馬司町）
天ぷらの製造を開始（奈良県中央卸売市場）
- ・1980年 外食産業向け納品事業を開始（大阪市中央卸売市場東部市場）
- ・1993年 直営飲食店の営業開始（大和郡山市馬司町）
- ・1994年 青果直販事業の開始（大阪市中央卸売市場東部市場）
ケータリング事業を開始（奈良県及び三重県下）
- ・1995年 加熱調理事業の開始

●最近の取組と今後の展開

- ・2018年 香港への輸出事業開始
かき揚げ事業開始
大型フリーザーを導入予定
- ・2019年 直営飲食店リニューアル
- ・2020年 新馬司工場完成
青果生鮮加工事業のさらなる強化



【質疑応答】

Q：どの地域からの採用が多いのか。

A：正社員の8割、パート従業員の9割以上が奈良県内からである。また、外国人技能実習生を30名ほど受け入れている。その他、留学生アルバイトの受入も行っているが、日本人のパート従業員とのバランスも考えながら雇用を行っている。

Q：香港への輸出事業を開始したということだが、他の国への展開は考えているのか。

A：将来的には、東アジア全体への事業展開を考えている。日本全国で輸出振興に向けて取り組んでいる中、海のない奈良県から輸出するのは厳しいが、差別化を図り、チャレンジしていきたい。